

加工技術だけでなく、企画開発や設計から顧客をサポート

- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンリーワン技術
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット
- 量産対応



この半世紀、新たな挑戦を乗り越える度に成長を遂げてきた

業務内容 照明器具のラインアップは600品番にも及ぶ

住宅照明や施設照明を設計、製造、開発から手がけ、ラインアップは約600品番にも及ぶ。かつてはシャンデリアなどの生産が多かったが、「阪神大震災でコンパクトな形ものが求められるようになった」と裕弘樹社長が説明するように、同じ照明器具でもその中身は時代によって大きく変わってきた。

最近ではLED（発光ダイオード）など光源の転換も急速に進んでいる。同社では組立ラインにクリーンブースを設けるなど、LED化の波にも対応。時代の変化へ柔軟に対応してきたことが、半世紀以上にわたる大手電機メーカーとの取引継続につながっている。

強み 生産設備も自らがけ、コスト競争力を維持

自社製品は持たないが、大手電機メーカーへ供給する製品では企画段階から入り込む。加えて生産設備の開発まで自ら行っている。そのため生産技術まで考慮に入れた製品設計もでき、国内生産ながら、海外に負けないコスト競争力を維持している。裕社長は「例えば海外と同じコストで生産できるのであれば、国内生産のメリットは計り知れない」と胸を張る。

得意とするのは金属加工。特に嵌合（かみあ）のコア技術で、光を制御するルーバーでは0.5mmの薄いアルミ板を0.05mmの誤差で組み立てるといって高い精度を誇る。

一貫生産 幅広い工程を取り込んだ一貫生産体制が強み

昭和58年に京都府田辺町（現京都府京田辺市）に金属加工工場を立ち上げた。

それが現在の田辺工場である。ルーバー部品など金属加工を社内に取り込むためだった。それまでは外注で対応していたが、求められる精度に応えられる協力企業が見つからなかったという。現在は塗装工程も内製化し、レーザー溶接もこなす。

最近ではファイバーレーザー溶接にロボットを組み合わせた設備も導入した。プレスからベンダー、レーザー切断、ターレットパンチプレス、溶接、塗装まで一貫生産できるのが強みだ。開発面では3Dプリンターも導入している。

後の展望 国内市場の縮小に向け、新分野への挑戦も

「常に新しい風を吹かす仕掛けをしていかないといけない」と裕社長は話す。照明器具の製造に携わってから半世紀あまり。その間にも、デザインや技術などで市場の変化が次々と同社を襲ったが、それらを乗り越える度に成長を遂げてきた。

しかし今後は国内市場そのものが少子高齢化で縮小は避けられない。それだけに新分野への挑戦が、これまで以上に課題となる。そんな挑戦の1つが金属加工技術を生かした宅配ボックスへの参入だ。自社ブランド製品ではないが、平成28年から生産をスタートし、大手メーカー向けに供給している。



企画やデザインから手がける



塗装工程も内製化

当社の歴史



昭和37年に「朝陽製作所」として創立。もともとスイッチなど機構部品を生産していましたが、昭和38年に電気用品の認証を取得し、照明器具の生産を始めました。昭和42年に守口工場、昭和58年に田辺工場を立ち上げ、大手電機メーカーの協力会社として品質優秀賞や合理化コンクールの金賞など受賞しています。

代表取締役 裕弘樹さん

<http://www.choyo-net.co.jp/>

主な事業内容

钣金加工を軸とした、照明器具および関連金具・住宅設備の製造

主な取引先(納入先)

照明器具製造メーカー、住宅設備製造メーカー

●住所

〒570-0014
守口市
藤田町2-25-7

- TEL 06-6904-1476
- FAX 06-6904-3118
- 創業 昭和37年4月
- 設立 昭和37年4月
- 資本金 2,000万円
- 従業員 164名

ISO 9001
ISO 14001

大阪28

大阪28